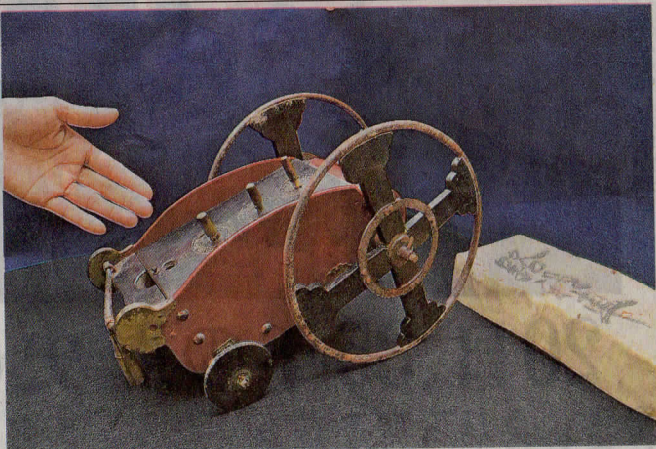


江戸後期の測量器具 2015.10.8 山陽

# 「路程車」岡山で発見

備前市歴史民俗資料館 23日から公開

備前市歴史民俗資料館（同市東片上）は7日、江戸後期に県内で



岡山市内で見つかった江戸時代の測量器具「路程車」

作られた測量器具「路程車」を岡山市内で発見したと発表した。岡山藩士で測量家の窪田浅五郎（1773〜1838年）の設計で、

引いて歩くと車輪が回り距離が測れる仕組み。同様の測量器具が西日本で見つかったのは初という。路程車の本体（木製

は長さ16・2寸、幅9・5寸、高さ9・3寸。直径20・2寸の後輪（鉄製）を含む重さは約1キ。後輪が3回転すると約2分になり、本体上部の目盛りで積算距離が示される。

窪田家文書（県立博物館蔵）により、路程車は、窪田が1812年から翌年にかけて5台製作したことが分かっていた。昨年7月、同資料館の学芸員が岡山市内の旧家に保存されているのを発見した。

同資料館などによると、江戸時代に日本列島の正確な地図を完成させた伊能忠敬が18

06年、現在の岡山市北区庭瀬〜広島県竹原市間を測量した際、窪田が随行しており、最先端の測量技術を習得した可能性が高いという。伊能が使用した「路程車」は目盛りが側面にあり、同資料館の井上靖子学芸員は「路程車は使いやすいよう改良されている。窪田の設計思想や製作した職人の技術の高さがうかがえる」と評価している。

路程車は23日〜12月6日に同資料館である企画展で公開する。入場無料。問い合わせは同館（0869④4428）。（岸俊行）